

一〇一三年七月二八日

月涼し古都の大路を照らしけり
落蝉の沙弥の簫に掃かれけり
大椰子に凭れ沖見るサングラス
水底の影で目高とわかりけり
向日葵の丘へ傾く夕日かな
夏霧に現れては隠る一山家

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子

一〇一三年七月二七日

ビ一玉を襦としたる水中花

せいじ

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子

一〇一三年七月二三日

隧道口簾となりて簾茂る
連綿とアルプスなせる雲の峰
瀬の樂にたたみかけては蝉時雨

せいじ

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子

一〇一三年七月二四日

夏空へ帆を揚ぐるごとシーツ干す
もべ

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子

一〇一三年七月二六日

リハビリの歩け歩けと蝉時雨
夏空や空港の名はこうのとり
昼寝覚あの世この世と入り混じり

毎日句会みのる選・一〇一三年七月三〇日

せいじ
かかし
こすもす
うつぎ

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子

一〇一三年七月二五日

置き配の立てかけてあり西日中
犬小屋の小さき葦簾に尻出でし
昼過ぎを知つてゐて止む蝉時雨

せいじ
なつき
せいじ

あひる
かえる
かえる
智恵子
うつぎ
夏雲を貫き出づる機影かな
たか子
素秀
澄子